

12:00~12:50 昼 食
アミロイドーシスに関する調査研究 分担研究者会議
(11階 鳳凰の間)

IV. 脳アミロイドーシス (12:50~13:50) Part 1 座長 東海林 幹夫

13. Aph-1 を介したγセクレターゼ活性の調節メカニズムの解明 12:50
水澤英洋、○三條伸夫^{さんじょうのぶお}、金海峰、渡邊睦房
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学(神経内科学)
14. エストロゲンのアルツハイマー病βアミロイド線維に対する抗アミロイド効果 13:05
山田正仁、○森永章義^{もりながあきよし}、廣畑美枝、小野賢二郎
金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科学)
15. transgenic mouse model を用いた脳アミロイド蓄積機序の検討と治療法の開発 13:20
東海林幹夫¹⁾、○瓦林毅^{かわらばやし たけし}¹⁾、松原悦朗²⁾
弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設脳神経内科学講座¹⁾、国立長
寿医療センター研究所・アルツハイマー病研究部²⁾
16. アルツハイマー病の抗体治療 13:35
東海林幹夫¹⁾、瓦林毅¹⁾、○松原悦朗²⁾
弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設脳神経内科学講座¹⁾、国立長
寿医療センター研究所・アルツハイマー病研究部²⁾

V. 脳アミロイドーシス (13:50~14:50) Part 2 座長 玉岡 晃

17. 典型的老人斑を欠く変異型アルツハイマー病アイオワ家系脳の生化学的解析 13:50
玉岡 晃¹⁾、○富所康志^{とみどころやすし}¹⁾、Blas Frangione²⁾、Jorge Ghiso²⁾
筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学専攻神経病態医学分野 (臨床医学系
神経内科)¹⁾、Department of Pathology, New York University School of Medicine²⁾
18. 慢性脳低灌流ラットにおけるアミロイドβ蛋白の発現 14:05
玉岡 晃¹⁾、○上野友之^{うえのともゆき}^{1),2)}、富所康志¹⁾、矢口雅江²⁾、古矢直己²⁾、河野 豊²⁾、
永田博司²⁾
筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学分野 (神経内科学)¹⁾、茨城県立医
療大学医科学センター²⁾
19. Cerebral Amyloid Angiopathy の画像診断に関する検討 (続報) 14:20
葛原茂樹¹⁾、○伊藤伸朗^{いとうのぶお}²⁾、小久保康昌²⁾、前田正幸³⁾、三室摩耶⁴⁾、橋詰良夫⁴⁾
国立病院機構精神神経センター武蔵病院¹⁾、三重大学大学院神経病態内科学 (神経内
科学)²⁾、三重大学大学院医学研究科病態制御医学講座非侵襲的診断治療分野 (放射
線科)³⁾、愛知医大加齢医学研究所神経病理学部門⁴⁾

20. 認知症脳における BRI 関連蛋白の検索

14:35

中里雅光、○塩見一剛、京楽 格
宮崎大学内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野

Coffee Break 14:50~15:10

VI. AA アミロイドーシス (15:10~15:55) Part 1 座長 山田 俊幸

21. AA アミロイドーシスモデル動物の病態発症における雌雄差とその要因に関する検討 15:10

中里雅光¹⁾、○伊達 紫²⁾

宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学¹⁾、宮崎大学フロンティア科学実験総合センター²⁾

22. 抗ヒト SAA1.83-95 の作製およびヒト AA アミロイドに対する免疫組織化学的検討 15:25

石原得博、○星井嘉信、伊東和恵、崔 丹、河野裕夫

山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系学域病理形態分野 (病理学第一講座)

23. 生検消化管粘膜の AA 定量 15:40

○山田俊幸¹⁾、佐藤純司¹⁾、奥田恭章²⁾

自治医科大学臨床検査医学講座¹⁾、道後温泉病院リウマチセンター内科²⁾

VII. AA アミロイドーシス (15:55~16:55) Part 2 座長 吉崎 和幸

24. 関節リウマチ続発性アミロイドーシスにおける腎アミロイド沈着のパターン分類
と臨床症状の相関について 15:55

○佐伯 修¹⁾、宇田裕史¹⁾、横田 章²⁾

大阪府立大学総合リハビリテーション学部・臨床栄養専攻¹⁾、大阪府立急性期医療センター・リウマチ科²⁾

25. メトトレキサートは日本人関節リウマチ続発性アミロイドーシスの予後を改善した 16:10

寺井千尋¹⁾、○小関由美¹⁾、金子裕隆¹⁾、稲田進一²⁾、森口正人³⁾、鎌谷直之¹⁾

東京女子医科大学・膠原病リウマチ痛風センター¹⁾、東京都立大塚病院・リウマチ膠原病科²⁾、自治医科大学さいたま医療センター・リウマチ科³⁾

26. AA アミロイドーシス合併関節リウマチに対する抗サイトカイン療法の有用性 16:25

○奥田恭章¹⁾、山田俊幸²⁾

道後温泉病院リウマチセンター内科¹⁾、自治医科大学臨床検査医学²⁾

臨床研究会の発足

○吉崎和幸¹⁾、山田正仁²⁾、池田修一³⁾、石原得博⁴⁾、今井裕一⁵⁾、奥田恭章⁶⁾、
工藤幸司⁷⁾、下条文武⁸⁾、高市憲明⁹⁾、中里雅光¹⁰⁾、山田俊幸¹¹⁾
大阪大学保健センター¹⁾、金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科学)²⁾、信州
大学医学部内科学第三 神経内科・リウマチ膠原病内科³⁾、山口大学医学部医学科 構
造制御病態学講座⁴⁾、愛知医科大学医学部内科学講座 腎臓・膠原病内科⁵⁾、医療法人
千寿会道後温泉病院 内科(リウマチ科)⁶⁾、東北大学先進医工学研究機構 高度情報
通信分野⁷⁾、新潟大学医歯学総合病院(第二内科)腎臓内科学⁸⁾、虎ノ門病院 腎セン
ター内科・腎臓病⁹⁾、宮崎大学医学部 第三内科¹⁰⁾、自治医科大学 臨床検査医学¹¹⁾

2月1日(金)

VIII. AL アミロイドーシス (9:00~10:00) Part 1 座長 池田 修一

28. ALアミロイドーシスに対する治療法の基礎的研究—ALアミロイドーシスを
含むMGUSにおける単クローン性形質細胞のNF- κ B活性について— 9:00
○^{かわのみちお}河野道生、大津山賢一郎、Jakia Amin, Abul Islam
山口大学医学系研究科・細胞シグナル解析学
29. monoclonal gammopathy of undetermined significance (MGUS) 患者での尿中 Bence
Jones 蛋白 (λ 型)と腎障害について 9:15
○^{やまだはるか}山田晴生、菅 憲弘、三浦直人、山口 諭、渡邊一司、北川 渡、
西川和裕
愛知医科大学 腎臓・膠原病内科
30. 全身性 AL アミロイドーシスの組織学的改善の可能性 9:30
高市憲明¹⁾、○^{ほしのじゅんいち}星野純一¹⁾、大橋健一²⁾
虎の門病院腎センター¹⁾、虎の門病院病理部²⁾
31. AL アミロイドニューロパチー2例に対する自己末梢血幹細胞移植を併用した
メルファラン大量療法の経験 9:45
池田修一¹⁾、○^{まつだまさゆき}松田正之¹⁾、田澤浩一¹⁾、加藤修明¹⁾、吉田拓弘¹⁾、矢崎正英¹⁾、
坂下一夫²⁾、小池健一²⁾
信州大学医学部内科(脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)¹⁾、小児科²⁾

IX. AL アミロイドーシス (10:00~11:00) Part 2 座長 島崎 千尋

32. 当院における原発性 AL アミロイドーシスに対する自家造血幹細胞移植の成績 10:00
○^{あさおくひでき}麻奥英毅¹⁾、片山雄太²⁾、名越久朗²⁾、大田逸郎²⁾、湯浅博美²⁾、許 泰一²⁾、
岩戸康治³⁾
広島赤十字・原爆病院・検査部¹⁾、第四内科²⁾、同輸血部³⁾
33. 当科における AL アミロイドーシスに対する自家末梢血幹細胞移植5例の経験 10:15
石田禎夫、○^{はやし としあき}林 敏昭、安井 寛、今井浩三、篠村恭久
札幌医科大学内科学第一講座
34. 原発性 AL アミロイドーシスに対する中等量メルファランによる寛解導入療法と
自家末梢血幹細胞移植療法: 中間解析 10:30
○^{しまざきちひろ}島崎千尋¹⁾、麻奥英毅²⁾、安倍正博³⁾、松田正之⁴⁾、鈴木憲史⁵⁾、畑 裕之⁶⁾、
山田正仁⁷⁾
京都府立医科大学血液・腫瘍内科¹⁾、広島赤十字原爆病院血液内科²⁾、徳島大学血液
内科³⁾、信州大学神経内科・リウマチ膠原病内科⁴⁾、日本赤十字医療センター血液内
科⁵⁾、熊本大学血液内科⁶⁾、金沢大学神経内科⁷⁾

35. 2回のL-PAM大量療法後サリドマイド投与にて血液学的寛解が得られた
原発性アミロイドーシスの1例

10:45

麻奥英毅¹⁾、○酒卷一平²⁾、河合泰一³⁾、津谷 寛⁴⁾、上田孝典⁵⁾

広島赤十字・原爆病院・検査部¹⁾、独立行政法人国立病院機構あわら病院 臨床研究部²⁾、福井大学医学部附属病院輸血部³⁾、独立行政法人国立病院機構あわら病院⁴⁾、福井大学医学部附属病院血液腫瘍内科⁵⁾

11:00 終了挨拶 主任研究者 山田 正仁

Coffee Break 11:15 まで

アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班 研究報告会

11:15 挨拶 主任研究者 池田修一

I. 脳アミロイドーシス、AA アミロイドーシス (11:20~12:35)

座長 山田 正仁

1. 暗視野高解像度レーザーマイクロダイセクションシステムの開発と疾患関連蛋白 11:20
質凝集体解析への応用
金子清俊、○八谷如美^{はちやなおみ}、西島佳奈、今川美登里
東京医科大学医学部神経生理学講座
2. NSAIDs や抗酸化化合物は α -シヌクレイン蛋白凝集抑制作用および不安定化作用を有する 11:35
山田正仁、○廣畑美枝^{ひろはたみえ}、小野賢二郎、森永章義
金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科）
3. アミロイドオリゴマーの解析：コラーゲンの作用について 11:50
○亀谷富由樹^{かめたにふゆき}
財団法人東京都医学研究機構・東京都精神医学総合研究所
4. 関節リウマチによる反応性アミロイドーシスに対する生物学的製剤の治療効果の検討 12:05
中野正明¹⁾、○黒田 毅^{くろだ たけし}²⁾、下条文武²⁾
新潟大学医学部保健学科¹⁾、新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科学分野²⁾
5. 本邦における家族性地中海熱患者の遺伝子異常と臨床像の検討 12:20
○土屋彩子^{つちやあやこ}¹⁾、矢崎正英¹⁾、中村昭則²⁾、松田正之¹⁾、池田修一¹⁾
信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科¹⁾、国立精神・神経センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部²⁾

12:35~13:20 昼 食

アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班 分担研究者
会議
(11階 鳳凰の間)

II. AL アミロイドーシス (13:20~13:50)

座長 松田 正之

6. AL アミロイドーシスの凝固異常とその対処、および BJP 吸着療法の試み 13:20
満屋裕明¹⁾、○畑^{はた}裕之^{ひろゆき}¹⁾、奥野 豊¹⁾、西 和彦²⁾、伊藤徳治²⁾、原田俊和²⁾
熊本大学医学部附属病院血液内科¹⁾、熊本大学医学部附属病院血液浄化療法部²⁾
7. ELISA 法を用いた血清中 free light chain の新規測定法の検討 13:35
○松田正之¹⁾、山田俊幸²⁾、石井 亘¹⁾、田澤浩一¹⁾、吉田拓弘¹⁾、加藤修明¹⁾、
池田修一¹⁾
信州大学医学部内科（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）¹⁾、自治医科大学臨床検査学講座²⁾

III. FAP (13:50~15:05)

座長 祖父江 元

8. Tc-99m アプロチニンの臨床利用の報告 13:50
—心集積を認めた家族性アミロイドポリニューロパチーの1例—
松田博史¹⁾、○今^{いま}林^{ばやし}悦子^{えつこ}¹⁾、久慈一英¹⁾、瀬戸 陽²⁾
埼玉医科大学国際医療センター核医学科¹⁾、埼玉医科大学病院核医学診療科²⁾
9. 新たな手法を用いたハイスループットな異型トランスサイレチンの分析 14:05
—検査室で可能な迅速かつ確実な FAP 診断法の確立—
○植田光晴¹⁾、安東由喜雄¹⁾、大林光念¹⁾、山下太郎²⁾、三隅洋平²⁾、内野 誠²⁾
熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学¹⁾、同 神経内科学²⁾
10. 家族性アミロイドポリニューロパチー(FAP)の病態解析と肝移植によらない新たな治療法の開発 —3年間のまとめ 14:20
○安東由喜雄¹⁾、植田光晴¹⁾、中村政明¹⁾、三隅洋平²⁾、山下太郎²⁾、齋藤史織²⁾、
大林光念²⁾、城野博史²⁾
熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学¹⁾、同 神経内科学²⁾
11. Transthyretin-related FAP: 若年発症例と高齢発症例の比較からみたアミロイド沈着の病態解析 14:35
祖父江 元¹⁾、○小池春樹¹⁾、両角佐織¹⁾、川頭祐一¹⁾、飯島正博¹⁾、服部直樹¹⁾、
山本正彦²⁾、安田武司³⁾、向井栄一郎⁴⁾、伊達 紫⁵⁾、塩見一剛⁶⁾、中里雅光⁶⁾、
斉藤史織⁷⁾、安東由喜雄⁷⁾
名古屋大学神経内科¹⁾、愛知学院大学健康科学科²⁾、トヨタ記念病院神経内科³⁾、
国立病院機構名古屋医療センター神経内科⁴⁾、宮崎大学フロンティア科学実験総合センター⁴⁾、
宮崎大学医学部第三内科⁶⁾、熊本大学医学部病態情報解析分野⁷⁾
12. 老人性全身性アミロイドーシスの臨床像の多様性について 14:50
○東城加奈¹⁾、土屋彩子¹⁾、小平 農¹⁾、矢崎正英¹⁾、関島良樹¹⁾*、
武井洋一¹⁾、池田修一¹⁾
信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）¹⁾、信州大学医学部遺伝子診療部*

Coffee Break 15:05~15:15

IV. 動物のアミロイドーシス (15:15~16:45)

座長 山田 学

13. 高齢牛に沈着したAAアミロイド線維のアミロイドーシス誘発活性 15:15
○樋口京一¹⁾、吉田拓弘²⁾、張 鵬堯¹⁾、張 蓓茹¹⁾、澤下仁子¹⁾、森 政之¹⁾、
付 笑影¹⁾、池田修一²⁾
信州大学医学系研究科加齢生物学分野¹⁾、信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・
膠原病内科²⁾
14. チーターにおけるウエスタンブロットイング法による糞中アミロイド排泄状況の 15:30
把握
○宇根有美¹⁾、樋口京一²⁾、崔 丹³⁾、榎園典子¹⁾、藤野みゆき¹⁾
麻布大学獣医学部獣医学科病理学研究室¹⁾、
信州大学医学研究科加齢生物学分野²⁾、山口大学大学院医学系研究科情報解析医
学系学域病理形態分野³⁾
15. 牛アミロイド症の病理発生の免疫組織化学的解析と野外診断法の検討 15:45
○山田 学¹⁾、山本 佑¹⁾、堀内雅之²⁾、古林与志安²⁾、松井高峯²⁾、中村菊保¹⁾
(独)動物衛生研究所¹⁾、帯広畜産大学畜産学部病態獣医学講座²⁾
16. 牛アミロイドのウサギへの投与実験 16:00
堀内雅之¹⁾、古林与志安¹⁾、山田 学²⁾、○松井高峯¹⁾
帯広畜産大学獣医学科病態獣医学¹⁾、(独)動物衛生研究所²⁾
17. 実験的マウスAAアミロイドーシスの発症における外来性アミロイド線維の役割 16:15
およびAAアミロイドーシスの治療
石原得博¹⁾、○崔 丹¹⁾、河野裕夫¹⁾、星井嘉信¹⁾、権藤俊一²⁾
山口大学大学院医学系研究科構造解析病態学講座¹⁾、山口大学病院病理部²⁾
18. マウス老化アミロイドーシスでの骨格筋へのアミロイド沈着 16:30
○銭 金澤¹⁾、巖 景民¹⁾、張 蓓茹¹⁾、葛 鳳霞¹⁾、澤下仁子¹⁾、友澤 寛²⁾、内木宏
延³⁾、森 政之¹⁾、付 笑影¹⁾、樋口京一¹⁾
信州大学医学研究科加齢適応医科学系加齢生物学分野¹⁾、信州大学ヒト環境科学
研究支援センター生命科学分野²⁾、福井大学医学部医学科病因病態医学講座分子
病理学領域³⁾

16:45 終了挨拶 主任研究者 池田 修一

[IV] 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|----------------------------|-----|-----------|----------|
| Hirohata M, Hasegawa K, Tsutsumi-Yasuhara S, Ohhashi Y, Ookoshi T, Ono K, Yamada M, Naiki H | The Anti-amyloidogenic effect against Alzheimer's β -amyloid fibrils in vitro is exerted by preferential and reversible binding of flavonoids to the amyloid fibril structure. | Biochemistry | 46 | 1888-1899 | 2007 |
| Hirohata M, Ono K, Morinaga A, Yamada M | Non-steroidal anti-inflammatory drugs have potent anti-fibrillogenic and fibril-destabilizing effects for α -synuclein fibrils in vitro. | Neuropharmacology | 54 | 620-627 | 2008 |
| Matsumoto Y, Yanase D, Noguchi-Shinohara M, Ono K, Yoshita M, Yamada M | Blood-brain barrier permeability correlates with medial temporal lobe atrophy, but not with amyloid- β protein transport across the blood-brain barrier in Alzheimer's disease. | Dement Geriatr Cogn Disord | 23 | 241-245 | 2007 |
| Matsumoto Y, Yanase D, Noguchi-Shinohara M, Ono K, Yoshita M, Yamada M | CSF/serum IgG index is correlated with medial temporal lobe atrophy in Alzheimer's disease. | Dement Geriatr Cogn Disord | | | In press |
| Matsunari I, Samuraki M, Chen W-P, Yanase D, Takeda N, Ono K, Yoshita M, Matsuda H, Yamada M, Kinuya S | Comparison of ^{18}F -FDG PET and optimized voxel-based morphometry for detection of Alzheimer's disease: aging effect on diagnostic performance. | J Nucl Med | 48 | 1961-1970 | 2007 |
| Morinaga A, Hirohata M, Ono K, Yamada M | Estrogen has anti-amyloidogenic effects on Alzheimer's β -amyloid fibrils in vitro. | Biochem Biophys Res Commun | 359 | 697-702 | 2007 |
| Motozaki Y, Sugiyama Y, Ishida C, Komai K, Matsubara S, Yamada M | Phenotypic heterogeneity in a family with FAP due to a TTR Leu58Arg mutation: a clinicopathologic study. | J Neurol Sci | 260 | 236-239 | 2007 |
| Nozaki I, Inao G, Yamada M | Donepezil-induced chorea in Alzheimer's disease. | J Neurol | 254 | 1752-1753 | 2007 |
| Nozaki I, Watanabe T, Kawaguchi M, Akatasu H, Tsuneyama K, Yamamoto Y, Ono K, Yonekura H, Yamada M, Yamamoto H | Reduced expression of endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts in hippocampal neurons of Alzheimer's disease brains. | Arch Histol Cytol | | | In press |
| Ono K, Hirohata M, Yamada M | Anti-fibrillogenic and fibril-destabilizing activities of anti-Parkinsonian agents for α -synuclein fibrils in vitro. | J Neurosci Res | 85 | 1547-1557 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|--------------------------------------|-----|-----------|----------|
| Ono K, Hirohata M, Yamada M | Anti-fibrillogenic and fibril-destabilizing activity of nicotine in vitro: Implications for the prevention and therapeutics of Lewy body diseases. | Exp Neurol | 205 | 414-424 | 2007 |
| Ono K, Noguchi-Shinohara M, Yoshita M, Naiki H, Yamada M | Cerebrospinal fluid of Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies patients enhances α -synuclein fibril formation in vitro. | Exp Neurol | 203 | 579-583 | 2007 |
| Ono K, Yamada M | Vitamin A potently destabilizes preformed α -synuclein fibrils in vitro: implications for Lewy body diseases. | Neurobiol Dis | 25 | 446-454 | 2007 |
| Samuraki M, Matsunari I, Chen WP, Yajima K, Yanase D, Fujikawa A, Takeda N, Nishimura S, Matsuda H, Yamada M | Partial Volume Effect Corrected FDG PET and Gray Matter Volume Loss in Patients with Mild Alzheimer's Disease. | Eur J Nucl Med Mol Imaging | 34 | 1658-1669 | 2007 |
| Chen WP, Samuraki M, Yanase D, Shima K, Takeda N, Ono K, Yoshita M, Nishimura S, Yamada M, Matsunari I | Effect of Sample Size for Normal Database on Diagnostic Performance of Brain FDG PET for Detection of Alzheimer's Disease Using Automated Image Analysis. | Nucl Med Commun | | | In press |
| 石田千穂、山田正仁 | アルツハイマー病、前頭側頭型認知症にみられる歩行障害 | 老年精神医学雑誌 | 18 | 49-54 | 2007 |
| 小野賢二郎、山田正仁 | β アミロイドの凝集とその抑制薬 | 医学のあゆみ (特集 Alzheimer 病-基礎・臨床研究の最新動向) | 220 | 361-364 | 2007 |
| 小野賢二郎、山田正仁 | 脳アミロイドーシスの診断と治療 | 腎と透析 (特集 1 アミロイドーシスの診療 up to date) | 62 | 260-262 | 2007 |
| 菅野圭子、森永章義、鈴木絵里子、山田正仁 | アルツハイマー病の非薬物治療 | Medicina | 44 | 1096-1099 | 2007 |
| 浜口 毅、山田正仁 | 脳アミロイドアンギオパチーとアルツハイマー病 | 臨床検査 | 52 | 266-272 | 2008 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|-----------------|------------|-----------|------|
| 廣畑美枝、小野賢二郎、山田正仁 | NSAIDs の抗 Alzheimer 病効果 | 神経治療学 | 24 | 187-194 | 2007 |
| 山田正仁 | 認知症の鑑別診断：鑑別すべき疾患・病態にはどのようなものがありますか？ | CLINICIAN | 563 | 1085-1088 | 2007 |
| 吉田光宏、山田正仁 | シヌレイノパチーと MIBG シンチ | Dementia Jpn | 21 | 68-80 | 2007 |
| 吉田光宏、山田正仁 | レビー小体型認知症の脳画像・心筋シンチ | 精神医学 | 49 | 699-705 | 2007 |
| 山田正仁 | 脳老化と認知症の科学 | 日整会誌 | 81 | 872-876 | 2007 |
| Kuroda T, Sato H, Murakami S, Saeki T, Hanyu T, Nakano M, Gejyo F | Work Shop/ Anti-TNF treatment in secondary amyloidosis associated with RA. | Mod Rheumatol | 17 (suppl) | S95-S96 | 2007 |
| 山本 卓、下条文武 | 透析アミロイドーシスの内科的治療と展望 | 腎と透析 | 6 | 217-220 | 2007 |
| 下条文武 | 透析アミロイドーシスの治療戦略 | 腎と透析 | 別冊 | 31-34 | 2007 |
| 山本 卓、長谷川一浩、山口 格、風間順一郎、丸山弘樹、成田一衛、後藤祐児、内木宏延、下条文武 | β 2-ミクログロブリンアミロイド線維形成・沈着の分子機構 | 透析会誌 | 40(12) | 1028-1030 | 2007 |
| Yazaki M, Mitsuhashi S, Tokuda T, Kametani F, Takei Y, Koyama J, Kawamorita A, Kanno H, Ikeda S | Progressive wild-type transthyretin deposition after liver transplantation preferentially occurs onto myocardium in FAP patients. | Am J Transplant | 7 | 235-242 | 2007 |
| Tokuda T, Takei Y, Takayama B, Hoshii Y, Ikeda S | Severe amyloid deposition in mammary glands of familial amyloid polyneuropathy. | Amyloid | 14 | 249-253 | 2007 |
| Ikeda S | Is familial amyloid polyneuropathy rare?: DNA testing is changing the concept of this disease. | Neurology | 69 | 627-628 | 2007 |
| Nakamura A, Matsuda M, Tazawa K, Shimojima Y, Ikeda S | Successful treatment with infliximab and low-dose methotrexate in a Japanese patient with familial mediterranean fever. | Intern Med | 46 | 1247-1249 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|----------------------------|---------|---------|----------|
| Takei Y, Gono T, Yazaki M, Ikeda S, Ikegami T, Hashikura Y, Miyagawa S, Hoshii Y | Transthyretin-derived amyloid deposition on the gastric mucosa in domino recipients of familial amyloid polyneuropathy liver. | Liver Transpl | 13 | 185-187 | 2007 |
| Tsuchiya A, Yazaki M, Kametani F, Takei Y, Ikeda S | Marked regression of abdominal fat amyloid in patients with familial amyloid polyneuropathy during long-term follow-up after liver transplantation. | Liver Transpl | | | In press |
| Shimajima Y, Morita H, Kobayashi S, Takei Y, Ikeda S | Ten-year follow-up of peripheral nerve function in patients with familial amyloid polyneuropathy after liver transplantation. | J Neurol | | | In press |
| Machida K, Tojo K, Naito K, Gono T, Nakata Y, Ikeda S | Cortical petechial hemorrhage subarachnoid hemorrhage and corticosteroid-responsive leukoencephalopathy in a patient with cerebral amyloid angiopathy. | Amyloid | | | In press |
| Ge F, Yao J, Fu X, Guo Z, Yan J, Zhang B, Zhang H, Tomozawa H, Miyazaki J, Sawashita J, Mori M, Higuchi K | Amyloidosis in transgenic mice expressing murine amyloidogenic apolipoprotein A-II (<i>Apoa2^C</i>). | Lab Invest | 87 | 633-643 | 2007 |
| Yan J, Fu X, Ge F, Zhang B, Yao J, Zhang H, Qian J, Tomozawa H, Naiki H, Sawashita J, Mori M, Higuchi K | Cross-seeding and cross-competition in mouse apolipoprotein A-II amyloid fibrils (AApoAII) and protein A amyloid fibrils (AA). | Am J Pathol | 171 | 172-180 | 2007 |
| Zhang B, Une Y, Ge F, Fu X, Qian J, Zhang P, Sawashita J, Higuchi K, Mori M | Characterization of the cheetah serum amyloid A1 (SAA1) gene: critical role and functional polymorphism of a <i>cis</i> -acting element. | J Heredity | | | In press |
| Miyazaki H, Oyama F, Wong HK, Kaneko K, Sakurai T, Tamaoka A, Nukina N | BACE1 modulates filopodia-like protrusions induced by sodium channel beta4 subunit. | Biochem Biophys Res Commun | 361 (1) | 43-48 | 2007 |
| Mizuno Y, Guyon JR, Ishii A, Hoshino S, Ohkoshi N, Tamaoka A, Okamoto K, Kunkel LM | Beta-synemin expression in cardiotoxin-injected rat skeletal muscle. | BMC Musculoskeletal Disord | 8 | 40 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|-----------------|-------------|-------------|----------|
| Aoyagi H, Hasegawa M, Tamaoka A | Fibrillogenic nuclei composed of P301L mutant tau induce elongation of P301L tau, but not wild-type tau. | J Biol Chem | 282 (28) | 20309-20318 | 2007 |
| 玉岡 晃 | インスリン分解酵素 | 日本臨床 | 66(suppl 1) | 72-79 | 2008 |
| 富所康志、玉岡 晃 | NSAIDs | 日本臨床 | 66(suppl 1) | 478-483 | 2008 |
| 玉岡 晃 | 高コレステロール血症とアルツハイマー型認知症 | 老年精神医学雑誌 | 18(10) | 1074-1082 | 2007 |
| 玉岡 晃、古庄健太郎、萩原直木、渡辺雅彦、吉沢和朗 | 今後の脳梗塞慢性期治療-茨城県下での脳梗塞慢性期管理における抗血小板薬のあり方を考える- | 新薬と治療 | 56(5) | 15-25 | 2007 |
| 玉岡 晃 | アルツハイマー病の危険因子と予防の可能性 | Medicina | 44(6) | 1082-1085 | 2007 |
| 玉岡 晃 | セクレターゼ阻害薬 | 神経治療学 | 24(2) | 177-186 | 2007 |
| 玉岡 晃 | アポEとアルツハイマー病-アポEの分子病態と疾患発症機構 | 医学のあゆみ | 220(5) | 431-438 | 2007 |
| Ogita M, Hoshino J, Sogawa Y, Sawa N, Katori H, Takemoto F, Ubara Y, Hara S, Miyakoshi S, Takaichi K | Multicentric Castleman disease with secondary AA renal amyloidosis, nephrotic syndrome and chronic renal failure, remission after high-dose melphalan and autologous stem cell transplantation. | Clin Nephrol | 68 | 171-176 | 2007 |
| 乳原善文、香取秀幸、曾川陽子、野村和史、高市憲明、大橋健一 | 腎アミロイドーシスの診断と治療 | 腎と透析 | 62 | 231-241 | 2007 |
| Wati H, Kawarabayashi T, Matsubara E, Kasai A, Hirasawa T, Kubota T, Harigaya Y, Shoji M, Maeda S | Transthyretin accelerates vascular A β deposition in a mouse model of Alzheimer's disease. | Brain Pathology | | | In press |
| Sasahara K, Yagi H, Naiki H, Goto Y | Heat-triggered conversion of protofibrils into mature amyloid fibrils of β 2-microglobulin. | Biochemistry | 46(11) | 3286-3293 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|---------------------|--------|-------------|----------|
| Nagai Y, Inui T, Popiel HA, Fujikake N, Hasegawa K, Urade Y, Goto Y, Naiki H, Toda T | A toxic monomeric conformer of the polyglutamine protein. | Nat Struct Mol Biol | 14(4) | 332-340 | 2007 |
| Sasahara K, Yagi H, Naiki H, Goto Y | Heat-induced conversion of β_2 -microglobulin and hen egg-white lysozyme into amyloid fibrils. | J Mol Biol | 372(4) | 981-991 | 2007 |
| Yagi H, Ban T, Morigaki K, Naiki H Goto Y | Visualization and classification of amyloid β supramolecular assemblies. | Biochemistry | 46(51) | 15009-15017 | 2007 |
| Yamamoto K, Yagi H, Ozawa D, Sasahara K, Naiki H, Goto Y | Thiol compounds inhibit the formation of amyloid fibrils by β_2 -microglobulin at neutral pH. | J Mol Biol | 376(1) | 258-268 | 2008 |
| Morimoto H, Wada J, Font B, Mott JD, Hulmes DJ, Ookoshi T, Naiki H, Yasuhara A, Nakatsuka A, Fukuoka K, Takatori Y, Ichikawa H, Akagi S, Nakao K, Makino H | Procollagen C-proteinase enhancer-1 (PCPE-1) interacts with β_2 -microglobulin (β_2 -m) and may help initiate β_2 -m amyloid fibril formation in connective tissues. | Matrix Biol | | | In press |
| 廣畑美枝、長谷川一浩、 安原しのぶ(堤)、 小野賢二郎、山田正仁、 内木宏延 | ポリフェノールが β アミロイド蛋白凝集に及ぼす抗アミロイド効果の分子機構解明 | 未病と抗老化 | 16(1) | 115-127 | 2007 |
| 今井裕一、西川和裕 | 腎臓専門医への紹介のタイミング(成人) | 日本医師会雑誌 特別号 | 136 | 128-129 | 2007 |
| 今井裕一、山田晴生 | 膜性腎症(成人) | 日本医師会雑誌 特別号 | 136 | 152-153 | 2007 |
| 今井裕一、吉野雅文 | ループス腎炎 | 総合臨床 | 56(増) | 461-465 | 2007 |
| 菅憲広、今井裕一 | 血液疾患と腎臓 | 総合臨床 | 56(増) | 2101-2105 | 2007 |
| 鈴木啓介、三浦直人、 今井裕一 | 腎不全患者の貧血の診かた | 治療 | 89 | 2489-2493 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|-------------------------------|-----|-----------|------|
| Mimuro M, Kokubo Y, Kuzuhara S | Similar topographical distribution of neurofibrillary tangles in amyotrophic lateral sclerosis and parkinsonism-dementia complex in people living in the Kii peninsula of Japan suggests a single tauopathy. | Acta Neuropathol | 113 | 653-658 | 2007 |
| Shibata N, Kawaguchi M, Uchida K, Kakita A, Takahashi H, Nakano R, Fujimura H, Sakoda S, Ihara Y, Nobukuni K, Takehisa Y, Kuroda S, Kokubo Y, Kuzuhara S, Honma T, Mochizuki Y, Mizutani T, Yamada S, Toi S, Sasaki S, Iwata M, Hirano A, Yamamoto T, Kato Y, Sawada T, Kobayashi M | Protein-bound crotonaldehyde accumulates in the spinal cord of superoxide dismutase-1 mutation-associated familial amyotrophic lateral sclerosis and its transgenic mouse model. | J Neurol Neurosurg Psychiatry | 78 | 203-204 | 2007 |
| Uchida R, Ashihara E, Sato K, Kimura S, Kuroda J, Takeuchi M, Kawata E, Taniguchi K, Okamoto M, Shimura K, Kiyono Y, Shimazaki C, Taniwaki M, Maekawa T | Gamma/delta T cells kill myeloma cell by sensing mevalonate metabolites and ICAM-1 molecules on cell surface. | Biochem Biophys Res Commun | 354 | 613-618 | 2007 |
| Murakami H, Handa H, Abe M, Iida S, Ishii A, Ishikawa T, Ishida T, Oota M, Ozaki S, Kosaka M, Sakai A, Sawamura M, Shimazaki C, Shimizu K, Takagi T, Hata H, Fukuhara T, Fujii H, Miyata A, Wakayama T, Takatsuki K. | Low-dose thalidomide plus low-dose dexamethasone therapy in patients with refractory multiple myeloma. | Eur J Haematol | 79 | 234-239 | 2007 |
| 島崎千尋 | 未治療骨髄腫に対する dexamethasone 単独と dexamethasone + thalidomide の 第 III 相試験 | 血液・腫瘍科 | 54 | 35-41 | 2007 |
| 島崎千尋 | 多発性骨髄腫 | 内科 | 100 | 1336-1342 | 2007 |
| 島崎千尋 | 多発性骨髄腫に対するタンデム自家 / 同種移植 | 血液・腫瘍科 | 55 | 688-694 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|------------------|----|-----------|----------|
| 島崎千尋 | 多発性骨髄腫。造血幹細胞移植 | 日本臨牀 | 65 | 2338-2342 | 2007 |
| 島崎千尋 | 蛋白電気泳動でMピークを認めない多発性骨髄腫 | Medical Practice | 24 | 1451 | 2007 |
| Nishikawa T, Hagihara K, Isobe T, Matsumura A, Song J, Tanaka T, Kawase I, Naka T, Yoshizaki K | Transcriptional complex formation of c-Fos, STAT3, and HNF-1a is essential for cytokine-driven CRP gene expression. | J. Immunol | | | In press |
| 吉崎和幸、萩原圭祐、西川哲平、宋 健 | AA アミロイドーシスの治療と展望 | 腎と透析 | 62 | 199-207 | 2007 |
| 吉崎和幸 | 関節リウマチにおける抗体医薬治療の今後の展望 | Pharma Medica | 25 | 51-55 | 2007 |
| Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Matsubara E, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Kakita A, Takahashi H, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y, Kuwano R, The Japanese Genetic Study Consortium for Alzheimer's Disease | Genetic association of CTNNA3 with late-onset Alzheimer's disease in females. | Hum Mol Genet | 16 | 2854-2869 | 2007 |
| Kurata T, Kawarabayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Ikeda M, Matsubara E, Westaway D, Hyslop PS, Harigaya Y, Kamiya T, Shoji M, Abe K | Enhanced accumulation of phosphorylated α -synuclein in double transgenic mice expressing mutant β -amyloid precursor protein and presenilin-1. | J Neurosci Res | 85 | 2246-2252 | 2007 |
| Nagata T, Nagano I, Shiote M, Narai H, Murakami T, Hayashi T, Shoji M, Abe K | Elevation of MCP-1 and MCP-1/VEGF ratio in cerebrospinal fluid of amyotrophic lateral sclerosis patients. | Neurol Res | 29 | 772-776 | 2007 |
| Nagata T, Ilieva H, Murakami T, Shiote M, Narai H, Ohta Y, Hayashi T, Shoji M, Abe K | Increased ER stress during motor neuron degeneration in a transgenic mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. | Neurol Res | 29 | 767-771 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|-------------------------------|-----|---------|----------|
| Murakami T, Moriwaki Y, Kawarabayashi T, Nagai M, Ohta Y, Deguchi K, Kurata T, Takehisa Y, Matsubara E, Ikeda M, Harigaya Y, Shoji M, Takahashi R, Abe K | PINK1, a gene product of PARK6, accumulates in α -synucleinopathy brains. | J Neurol Neurosurg Psychiatry | 78 | 653-654 | 2007 |
| Matsubara E, Tsuchiya A, Minami N, Nishino I, Pappolla MA, Shoji M, Abe K | A unique case of limb-girdle muscular dystrophy type 2A carrying novel compound heterozygous mutations in the human CAPN3 gene. | Eur J Neurol | 14 | 819-822 | 2007 |
| Ohta Y, Hayashi T, Nagai M, Okamoto M, Nagotani S, Nagano I, Ohmori N, Takehisa Y, Murakami T, Shoji M, Kamiya T, Abe K | Two cases of spinocerebellar ataxia accompanied by involvement of the skeletal motor neuron system and bulbar palsy. | Intern Med | 46 | 751-755 | 2007 |
| Xu W, Kawarabayashi T, Matsubara E, Deguchi K, Murakami T, Harigaya Y, Ikeda M, Amari M, Kuwano R, Abe K, Shoji M | Plasma antibodies to A β 40 and A β 42 in patients with Alzheimer's disease and normal controls. | Brain Res | | | In press |
| Kawarabayashi T, Shoji M | Plasma biomarkers of Alzheimer's disease. | Curr Opin Psychiatry | | | In press |
| 鈴木千恵子、新井 陽、木村珠喜、若佐谷保仁、清野祐輔、富山誠彦、馬場正之、東海林幹夫、杉本一博 | アキレス腱反射減弱をともなった30歳代の認知症例 | 臨床脳波 | 49 | 65-68 | 2007 |
| 鈴木千恵子、新井 陽、富山誠彦、馬場正之、東海林幹夫 | パンダサインを呈したサルコイドーシス | 神経内科 | | | 印刷中 |
| 東海林幹夫 | アルツハイマー病の新規診断法の開発 | Clinical Neuroscience | 25 | 178-180 | 2007 |
| 東海林幹夫 | アルツハイマー病におけるアクチン細胞骨格異常 | 日薬理誌 | 130 | 358-361 | 2007 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|----------------------|-------------------------------------|------------------|-----|---------|------|
| 東海林幹夫 | バイオマーカーはどこまで進歩したのか脳脊髄液・血液マーカーの現状と課題 | 老年精神医学雑誌 | | | 印刷中 |
| 瓦林 毅、東海林幹夫 | 脂質管理による認知症の予防 | 分子脳血管病 | 7 | 66-71 | 2008 |
| 瓦林 毅、東海林幹夫 | Alzheimer 病治療の進歩 ワクチン療法 | 神経治療学 | 24 | 169-176 | 2007 |
| 瓦林 毅、東海林幹夫 | Alzheimer 病のバイオマーカー | 医学のあゆみ | 220 | 409-414 | 2007 |
| 瓦林 毅、東海林幹夫 | アルツハイマー病の最近の進歩 アルツハイマー病の早期診断法 | 臨床検査 | | | 印刷中 |
| 瓦林 毅、東海林幹夫 | 動物モデルからみた神経変性疾患、前頭側頭型認知症 | 神経内科 | | | 印刷中 |
| 東海林幹夫 | 薬剤性認知症 | Modern physician | 27 | 722 | 2007 |
| 東海林幹夫 | 認知症患者への処方 | Modern physician | 27 | 862 | 2007 |
| 富山誠彦、東海林幹夫 | ふるえと認知症 | Modern physician | 27 | 51-54 | 2007 |
| 富山誠彦、東海林幹夫 | ゾニサミドが著効したパーキンソン病の一例 | Pharma Medica | 257 | 162-163 | 2007 |
| 東海林幹夫 | テロメアの短縮は認知症の発症と予後に関連する危険因子である | Brain & Nerve | | | 印刷中 |
| 渡辺光法、富山誠彦、瓦林 毅、東海林幹夫 | 神経変性疾患の病態抑止治療(分子標的治療)-Alzheimer 病- | 神経治療学 | | | 印刷中 |
| 渡辺光法、富山誠彦、瓦林 毅、東海林幹夫 | 認知症のバイオマーカー | 臨床と研究 | | | 印刷中 |
| 渡辺光法、富山誠彦、瓦林 毅、東海林幹夫 | アルツハイマー病臨床研究の最前線-バイオマーカー- | カレントセラピー | | | 印刷中 |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|------------------------------|----|-----------|----------|
| Kiyama M, Hoshii Y, Cui D, Kawano H, Kanda T, Ishihara T | Immunohistochemical and immunochemical study of amyloid in liver affected by systemic A λ amyloidosis with antibodies against three different regions of immunoglobulin λ light chain. | Pathol Int | 57 | 343-350 | 2007 |
| Omoto M, Yokota T, Cui D, Hoshii Y, Kawano H, Gondo T, Ishihara T, Kanda T | Inactivation of amyloid-enhancing factor (AEF): study on experimental murine AA amyloidosis. | Med Mol Morphol | 40 | 88-94 | 2007 |
| Cui D, Hoshii Y, Kawano H, Sugiyama S, Gondo T, Liu Y, Ishihara T | Experimental AA amyloidosis in mice is inhibited by treatment with triptolide, a purified traditional Chinese medicine. | Int Immunopharmacol | 7 | 1232-1240 | 2007 |
| Liu Y, Cui D, Hoshii Y, Kawano H, Une Y, Gondo T, Ishihara T | Induction of Murine AA Amyloidosis by Various Homogeneous Amyloid Fibrils and Amyloid-like Synthetic Peptides. | Scand J Immunol | 66 | 495-500 | 2007 |
| Liu S, Otsuyama K, Ma Z, Abroun S, Shamsasenjan K, Amin J, Asaoku H, Kawano MM | Induction of multilineage markers in human myeloma cells and their down-regulation by interleukin-6. | Int J Hematol | 85 | 49-58 | 2007 |
| Otsuyama K, Ma Z, Abroun S, Amin J, Shamsasenjan K, Asaoku H, Kawano MM | PPARbeta-mediated growth suppression of baicalein and dexamethasone in human myeloma cells. | Leukemia | 21 | 187-190 | 2007 |
| 奥田恭章 | AA アミロイドーシスの病態と診断 | 腎と透析 | 62 | 194-198 | 2007 |
| 奥田恭章 | 関節リウマチ患者の重要な合併症—AA アミロイドーシス | Medical Technology | 36 | 54-57 | 2008 |
| Okuda Y | Review of Tocilizumab in the treatment of rheumatoid arthritis. | Biologics: Targets & Therapy | 2 | | In press |
| Yamamoto S, Wilczek H. E, Nowak G, Larsson M, Oksanen A, Iwata T, Gjertsen H, Söderdahl G, Wikström L, Ando Y, Suhr OB, Ericzon B-G | Liver Transplantation for Familial Amyloidotic Polyneuropathy (FAP): A Single - Center Experience Over 16 Years. | Am J Transplant | 7 | 2597-604 | 2007 |